

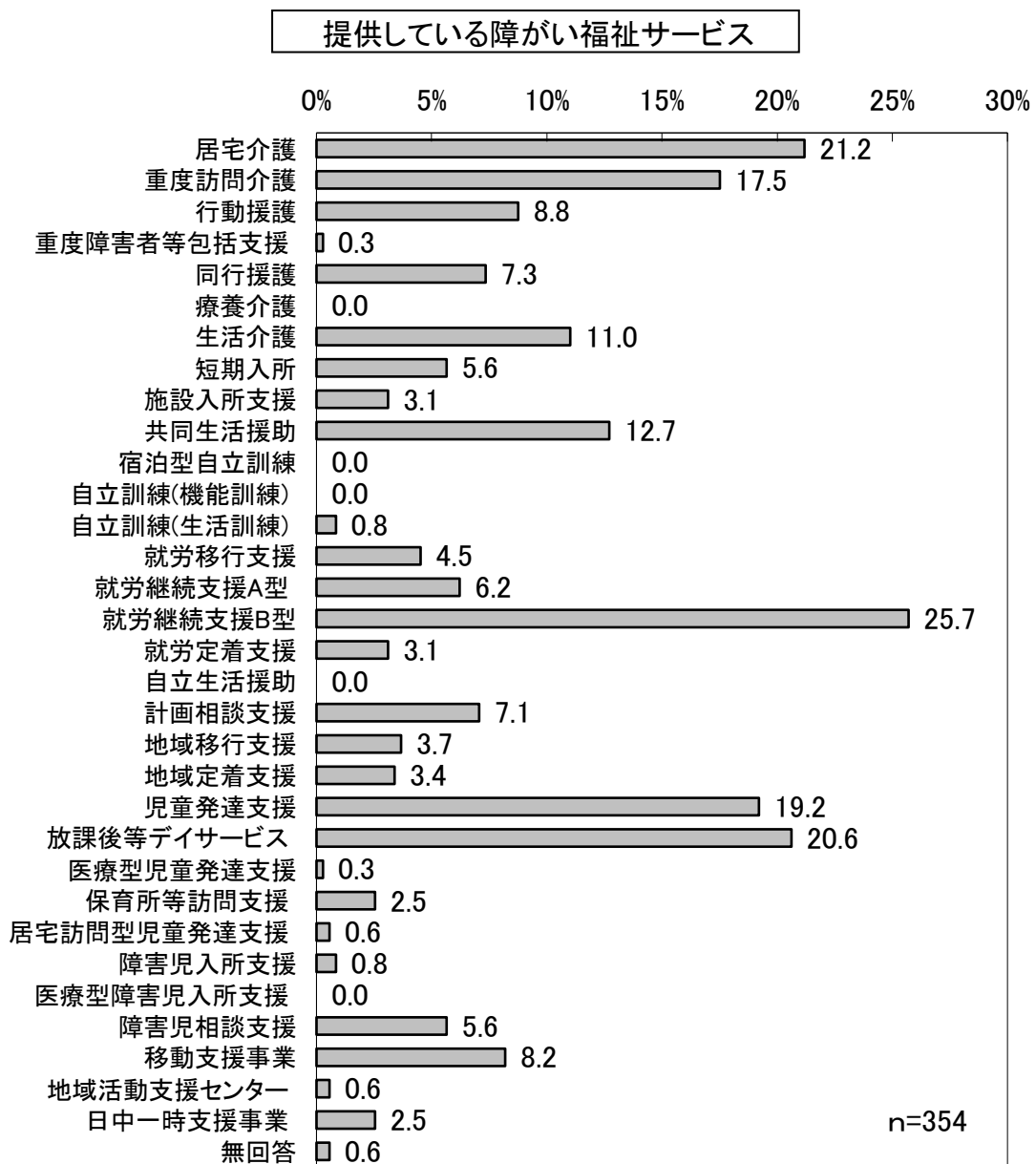
【6.事業所調査】

3. 6 事業所調査

1 貴事業所について

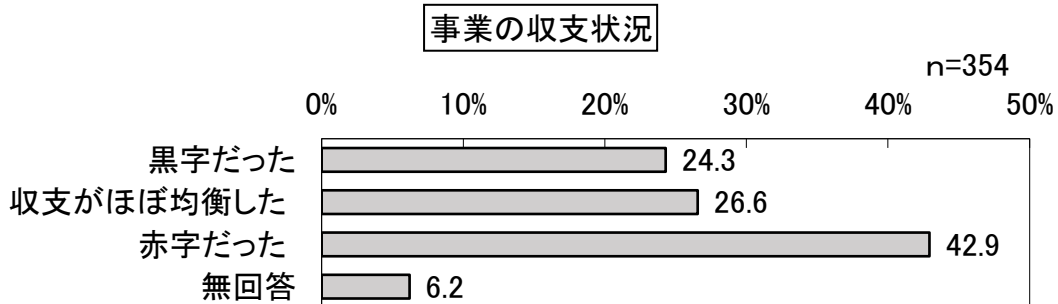
問1 貴事業所が提供している障がい福祉サービス等をすべて選択してください。【複数回答】

提供している障がい福祉サービス種別については、「就労継続支援 B 型」が 25.7%と最も高く、次いで「居宅介護」が 21.2%、「放課後等デイサービス」が 20.6%となっている。



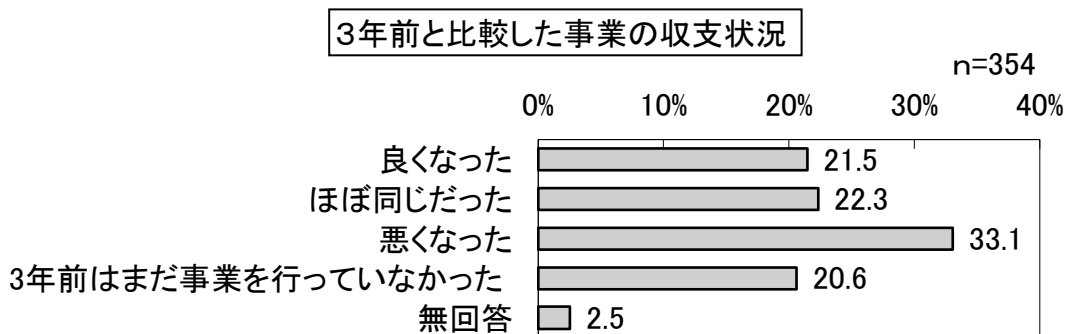
問2-1 貴事業所の令和3年度事業収支状況はいかがでしたか。あてはまるものを1つ選択してください。

事業の収支状況については、「赤字だった」が42.9%と最も高く、次いで「収支がほぼ均衡した」が26.6%、「黒字だった」が24.3%となっている。



問2-2 貴事業所の令和3年度事業収支状況は3年前と比べていかがでしたか。あてはまるものを1つ選択してください。

3年前と比較した事業の収支状況については、「悪くなった」が33.1%と最も高く、次いで「ほぼ同じだった」が22.3%、「良くなった」が21.5%となっている。



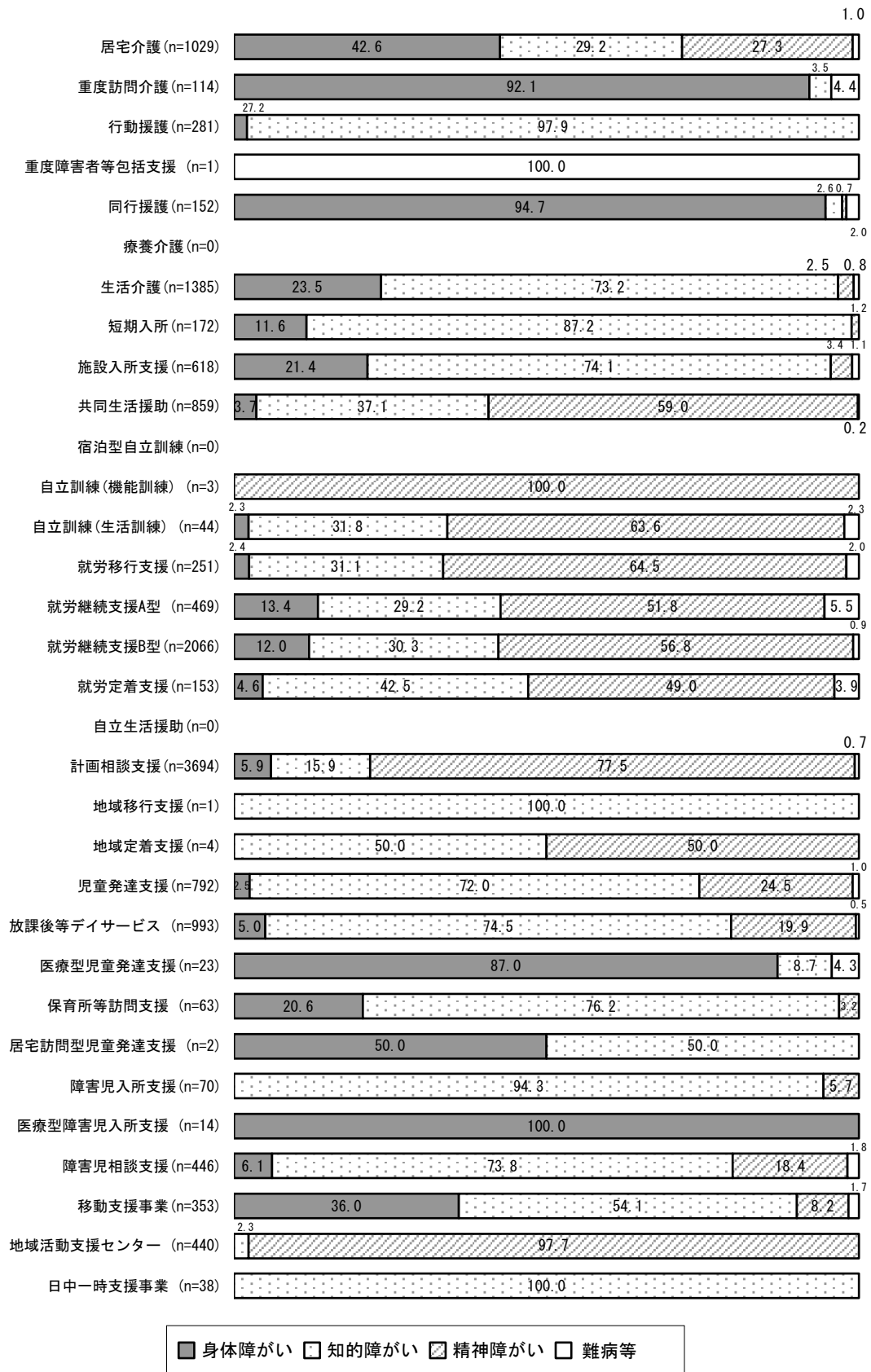
## 【6.事業所調査】

問3

貴事業所で提供しているサービスを利用されている方は令和4年10月1日付けで何人ですか。サービス種別、障がい種別ごとにお答えください。※「重度障がい」は重症心身障がい児者および強度行動障がい児者を指す

各サービスの利用者内訳は次ページのとおり。

【6.事業所調査】



## 【6.事業所調査】

生活介護、短期入所、共同生活援助、障害児通所支援(児童発達支援及び放課後等デイサービス)を実施している事業所のみお答えください。(令和4年10月1日現在)

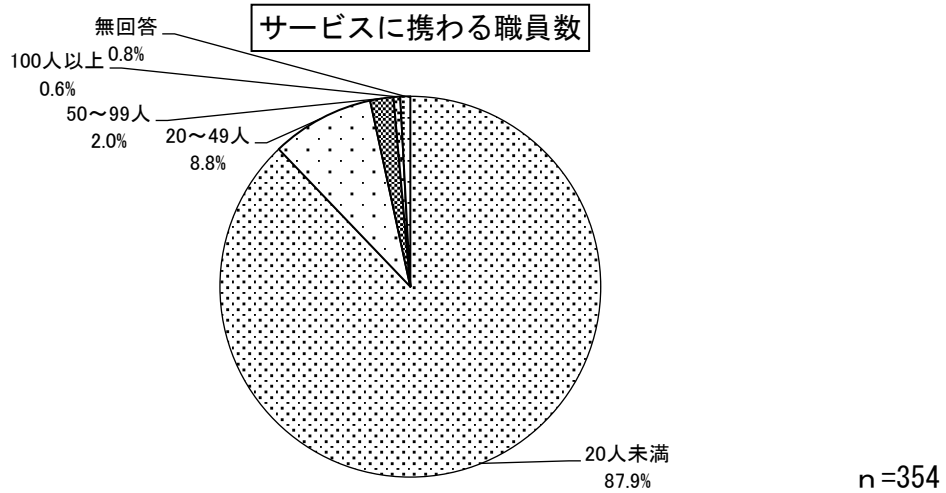
各サービスの追加受入余力をみると「障害児通所支援」が197人、「生活介護」が94人となっている。その他、各サービスの定員数、追加受入余力についての内訳は下記のとおり。

	生活介護	短期入所	共同生活援助 (グループホーム)	障害児通所支援
①定員数	1,202	95	739	980
②追加で受入可能な人数	94	5	34	197
(うち重度障がい者数)	38	2	0	53

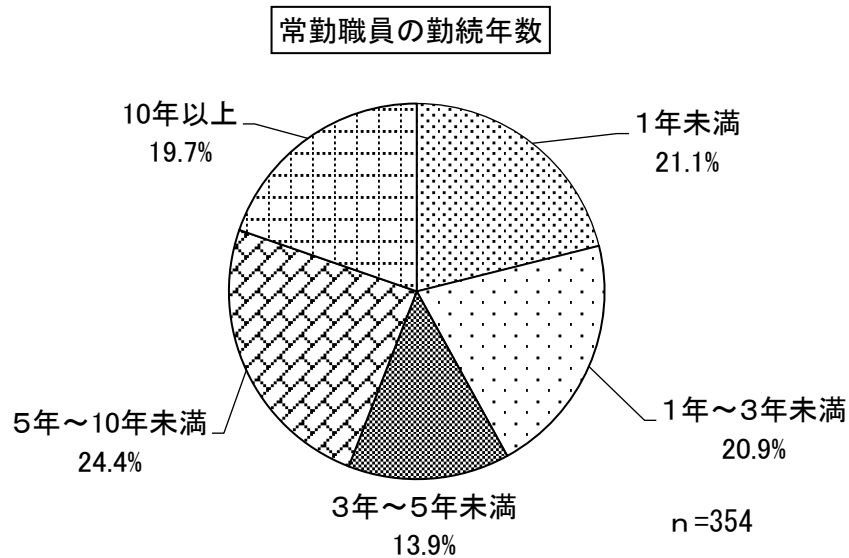
2 職員について

問5 貴事業所でサービスに携わる職員数は何人ですか。  
勤続年数ごとに入力してください。

事業所における総職員数は「20人未満」の事業所が87.9%と最も高く、次いで「20人～49人」の事業所が8.8%となっている。

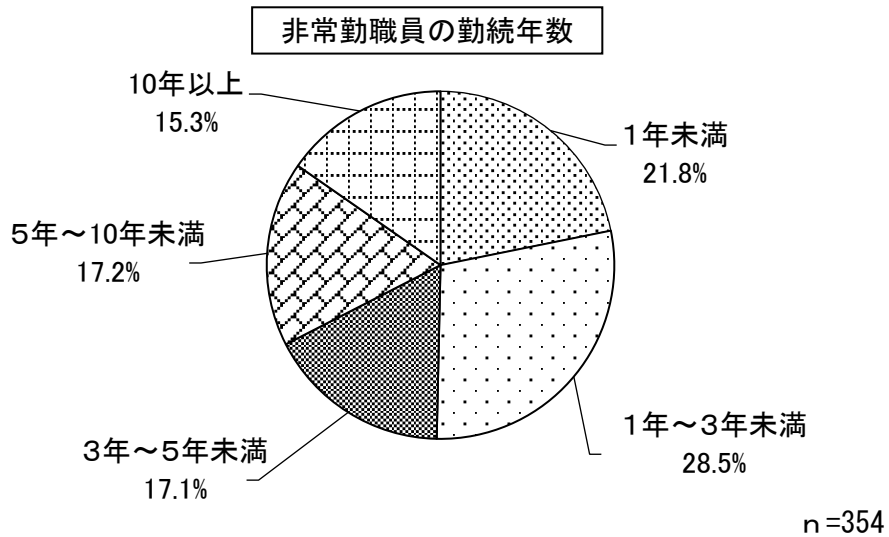


常勤職員の勤続年数は「5年～10年未満」が24.4%と最も高く、次いで「1年未満」が21.1%となっている。



【6.事業所調査】

非常勤職員の勤続年数は「1年～3年未満」が28.5%と最も高く、次いで「1年未満」が21.8%となっている。



貴事業所の職員について、令和3年1月1日から令和3年12月31日までの1年間の採用者数と離職者数は何人でしたか。※令和3年1月2月以降に事業を開始した場合は、事業開始日から令和3年12月31日までの採用者数と離職者数を入力してください。

各勤務形態別の採用者数、離職者数の内訳は下記のとおり。

	採用者数	離職者数	離職した職員の勤務年数	
			1年未満	3年未満
常勤職員	417	273	130	69
非常勤職員	367	242	117	76

【6.事業所調査】

問 6 - 問 6 で回答した採用者の採用時のキャリアについて、各状態の人数  
2           を入力してください。

各勤務形態別の採用時のキャリアについて、内訳は下記のとおり。

	学生新卒	既卒・ 福祉未経験	既卒・福祉経験者だが 障がい未経験	既卒・障がい 福祉経験者
常勤職員	56	115	68	196
非常勤職員	9	141	69	149

問 6 - 問 6 で回答した採用者の学歴について、各状態の人数を入力してく  
3           ださい。

各勤務形態別の採用時の学歴について、内訳は下記のとおり。

	大学院・大学・ 短大・専門学校 (福祉系又は医 療系)	大学院・大学・ 短大・専門学校 (福祉系及び医 療系以外)	高卒	その他
常勤職員	146	134	118	14
非常勤職員	55	132	144	43



【6.事業所調査】

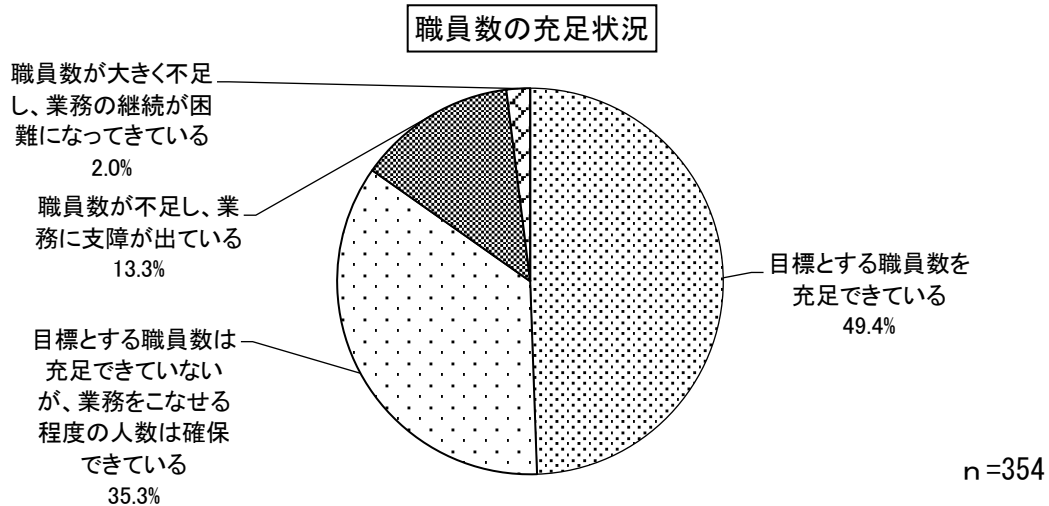
問6-4 問6で回答した離職者のうち、貴法人就職後3年以内に離職した職員の採用時のキャリアについて、各状態の人数を入力してください。

各勤務形態別の離職者の採用時のキャリアについて内訳は下記のとおり。

	学生新卒	既卒・ 福祉未経験	既卒・福祉経験者だが 障がい未経験	既卒・障がい 福祉経験者
常勤職員	15	64	37	66
非常勤職員	5	58	46	74

問7 貴事業所では、目標とする職員数(人手)が充足できていますか。あてはまるものを1つ選択してください。

職員数の充足状況については、「目標とする職員数を充足できている」が49.4%と最も高く、次いで「目標とする職員数は充足できていないが、業務をこなせる程度の人数は確保できている」が35.3%、「職員数が不足し、業務に支障が出ている」が13.3%、「職員数が大きく不足し、業務の継続が困難になってきている」が2.0%となっている。



総職員数別にみると、総職員数が「20～49人」「50～99人」「100人以上」の事業所は「目標とする職員数は充足できていないが、業務をこなせる程度の人数は確保できている」の回答割合が最も高くなっている。また、「20人未満」の事業所では「目標とする職員数は充足できている」が最も高くなっている。

	問7目標とする職員数が充足できていますか				
	目標とする職員数を充足できている	目標とする職員数は充足できていないが、業務をこなせる程度の人数は確保できている	職員数が不足し、業務に支障が出ている	職員数が大きく不足し、業務の継続が困難になっている	無回答
全体	49.4%	35.3%	13.3%	2.0%	0.0%
20人未満	51.4%	33.4%	12.9%	2.3%	0.0%
20～49人	41.9%	45.2%	12.9%	0.0%	0.0%
50～99人	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%	0.0%
100人以上	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%

## 【6.事業所調査】

《問7で「目標とする職員は充足できていないが、業務をこなせる程度の人数は確保できている」「職員数が不足し、業務に支障が出ている」「職員数が大きく不足し、業務の継続が困難になってきている」を回答した事業所にお聞きします》

問8 - 1 不足している職員は、どのような職種や役割で何人程度でしょうか。内容について、「生活支援員が2人不足している」「喀痰吸引できる人が1人不足している」などと記載してください。【自由記述】

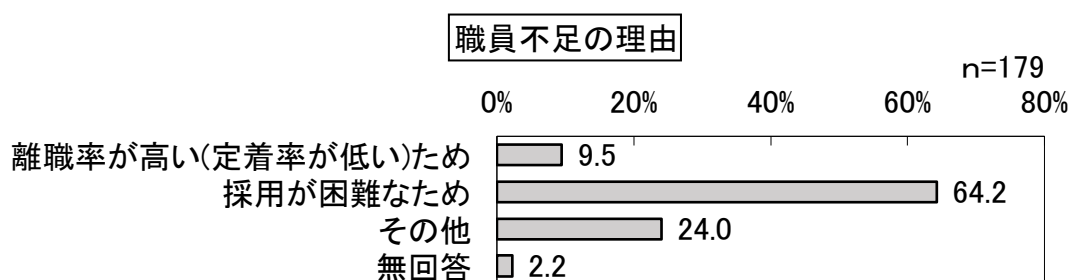
不足している職員については、158件（回答件数179件の88.3%）の回答が寄せられた。回答が多かった職種の集計結果は以下のとおり。

※自由記述欄に人数が記載されていない回答は「1人」として集計している。

職種・役割	不足している 人数の平均（人）
生活支援員	2.3
介護福祉士	2.0
訪問介護員	2.0
送迎員	1.3
保育士	1.3
職業指導員	1.2
相談支援員	1.2
児童指導員	1.0

問8-2 職員が不足していると感じる理由はどのようなものですか。あてはまるものを1つ選択してください。

職員不足の理由については、「採用が困難なため」が64.2%と最も高く、次いで「その他」が24.0%、「離職率が高い(定着率が低い)ため」が9.5%となっている。



総職員数別にみてもいずれの事業所も「採用が困難なため」とする割合が最も高い。

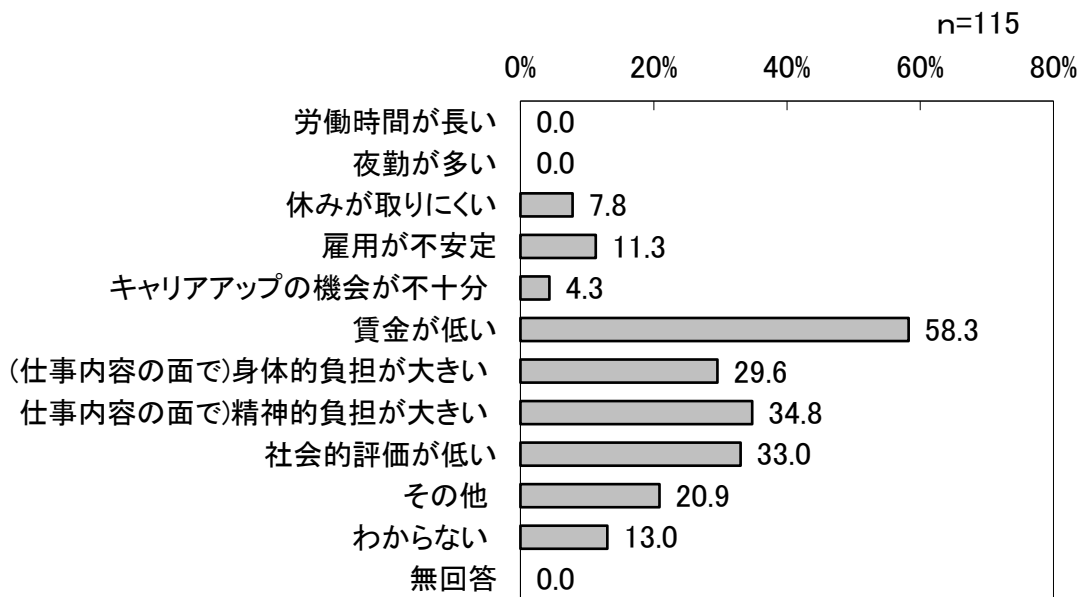
	問8-2不足していると感じる理由			
	離職率が高い(定着率が低い)ため	採用が困難なため	その他	無回答
全体	9.5%	64.2%	24.0%	2.2%
20人未満	7.3%	63.6%	27.2%	2.0%
20~49人	16.7%	72.2%	11.1%	0.0%
50~99人	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
100人以上	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%

【6.事業所調査】

《問8-2で「採用が困難なため」を回答した事業所にお聞きします》  
 問9 採用が困難な原因はどこにあると思いますか。あてはまるものを3つまで選択してください。【複数回答】

採用が困難な原因については、「賃金が低い」が58.3%と最も高く、次いで「(仕事内容の面で)精神的負担が大きい」が34.8%、「社会的評価が低い」が33.0%となっている。

採用が困難な原因

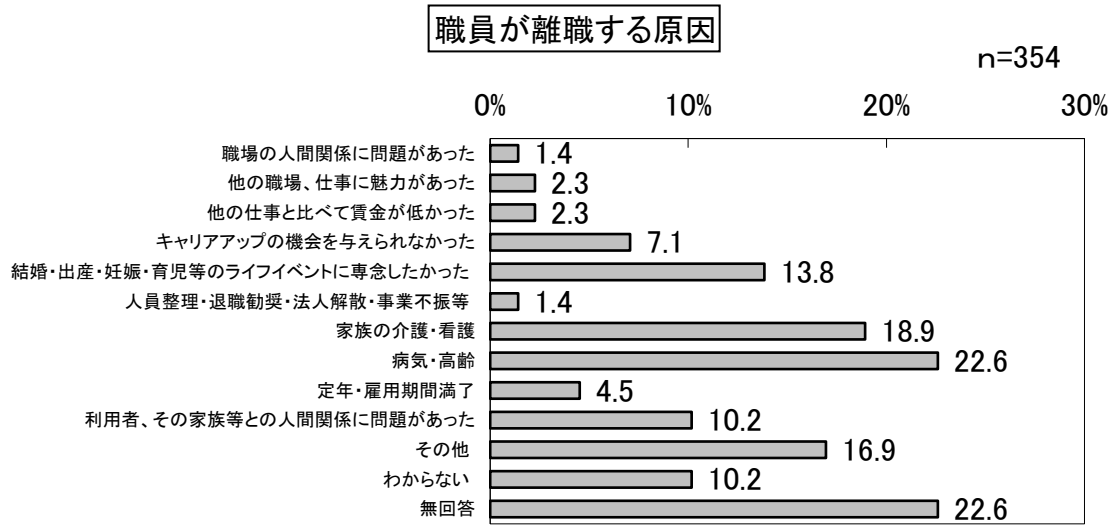


総職員数別にみても、同様の傾向である。

	問9採用が困難な原因											
	労働時間が長い	夜勤が多い	休みが取りにくい	雇用が不安定	キャリアアップの機会が不十分	賃金が低い	(仕事内容の面で)身体的負担が大きい	仕事内容の面で精神的負担が大きい	社会的評価が低い	その他	わからない	無回答
全体	0.0%	0.0%	7.8%	11.3%	4.3%	58.3%	29.6%	34.8%	33.0%	20.9%	13.0%	0.0%
20人未満	0.0%	0.0%	9.4%	12.5%	4.2%	56.3%	26.0%	33.3%	29.2%	19.8%	14.6%	0.0%
20~49人	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	7.7%	69.2%	53.8%	38.5%	38.5%	23.1%	7.7%	0.0%
50~99人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%	75.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
100人以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問 10 貴事業所では、職員が離職する原因はどこにあると思いますか。あてはまるものを3つまで選択してください。【複数回答】

職員が離職する原因については、「病気・高齢」が22.6%と最も高く、次いで「家族の介護・看護」が18.9%、「その他」が16.9%となっている。



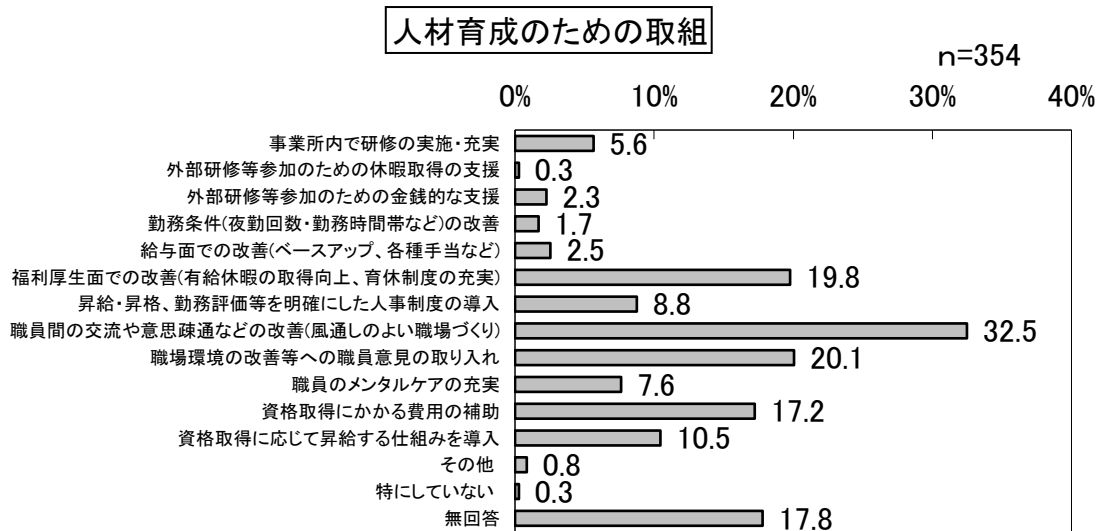
総職員数別にみると、「100人以上」の事業所では「定年・雇用期間満了」「利用者、その家族等との人間関係に問題があった」の回答割合が最も高くなっており、「20～49人」の事業所では「家族の介護・看護」の割合が高くなっている。

	問10職員が離職する原因												
	職場の人間関係に問題があった	他の職場、仕事に魅力があった	他の仕事と比べて賃金が低かった	キャリアアップの機会を与えられなかった	結婚・出産・妊娠・育児等のライフイベントに専念したかった	人員整理・退職勧奨・法人解散・事業不振等	家族の介護・看護	病気・高齢	定年・雇用期間満了	利用者、その家族等との人間関係に問題があった	その他	わからない	無回答
全体	1.4%	2.3%	2.3%	7.1%	13.8%	1.4%	18.9%	22.6%	4.5%	10.2%	16.9%	10.2%	22.6%
20人未満	1.3%	1.9%	2.3%	7.1%	14.5%	1.6%	18.6%	23.2%	3.5%	10.0%	17.4%	10.6%	23.8%
20～49人	3.2%	6.5%	3.2%	9.7%	9.7%	0.0%	22.6%	16.1%	12.9%	9.7%	12.9%	9.7%	9.7%
50～99人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	28.6%	0.0%	14.3%	28.6%	0.0%	28.6%
100人以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%

【6.事業所調査】

問 11 貴事業所では、人材確保のためにどのような取組をとっていますか。  
あてはまるものを3つまで選択してください。【複数回答】

人材確保のための取組については、「職員間の交流や意思疎通などの改善(風通しのよい職場づくり)」が32.5%と最も高く、次いで「職場環境の改善等への職員意見の取り入れ」が20.1%、「福利厚生面での改善(有給休暇の取得向上、育休制度の充実)」が19.8%となっている。



総職員数別にみても同様の傾向である。

	問11人材育成のための取組						
	事業所内で研修の実施・充実	外部研修等参加のための休暇取得の支援	外部研修等参加のための金銭的な支援	勤務条件(夜勤回数・勤務時間帯など)の改善	給与面での改善(ベースアップ、各種手当など)	福利厚生面での改善(有給休暇の取得向上、育休制度の充実)	昇給・昇格、勤務評価等を明確にした人事制度の導入
全体	5.6%	0.3%	2.3%	1.7%	2.5%	19.8%	8.8%
20人未満	5.8%	0.3%	2.3%	1.9%	2.3%	18.3%	9.3%
20～49人	6.5%	0.0%	3.2%	0.0%	6.5%	29.0%	6.5%
50～99人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%
100人以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%

	職員間の交流や意思疎通などの改善(風通しのよい職場づくり)	職場環境の改善等への職員意見の取り入れ	職員のメンタルケアの充実	資格取得にかかる費用の補助	資格取得に応じて昇給する仕組みを導入	その他	特にしていない
	全体	32.5%	20.1%	7.6%	17.2%	10.5%	0.8%
20人未満	34.1%	21.9%	8.0%	17.0%	11.3%	1.0%	0.3%
20～49人	19.4%	9.7%	6.5%	19.4%	6.5%	0.0%	0.0%
50～99人	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
100人以上	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%

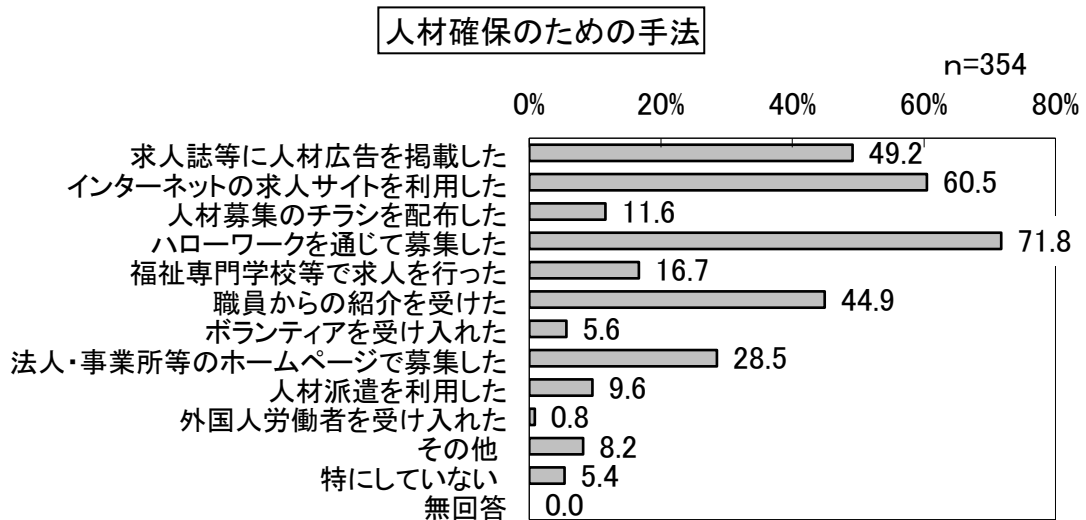
	問11人材育成のための取組
	無回答
全体	17.8%
20人未満	16.7%
20～49人	22.6%
50～99人	57.1%
100人以上	0.0%
無回答	0.0%



【6.事業所調査】

問 12 貴事業所では、人材確保のためにどのような手法をとっていますか。  
あてはまるものをすべて選択してください。【複数回答】

人材確保のための手法については、「ハローワークを通じて募集した」が71.8%と最も高く、次いで「インターネットの求人サイトを利用した」が60.5%、「求人誌等に人材広告を掲載した」が49.2%となっている。



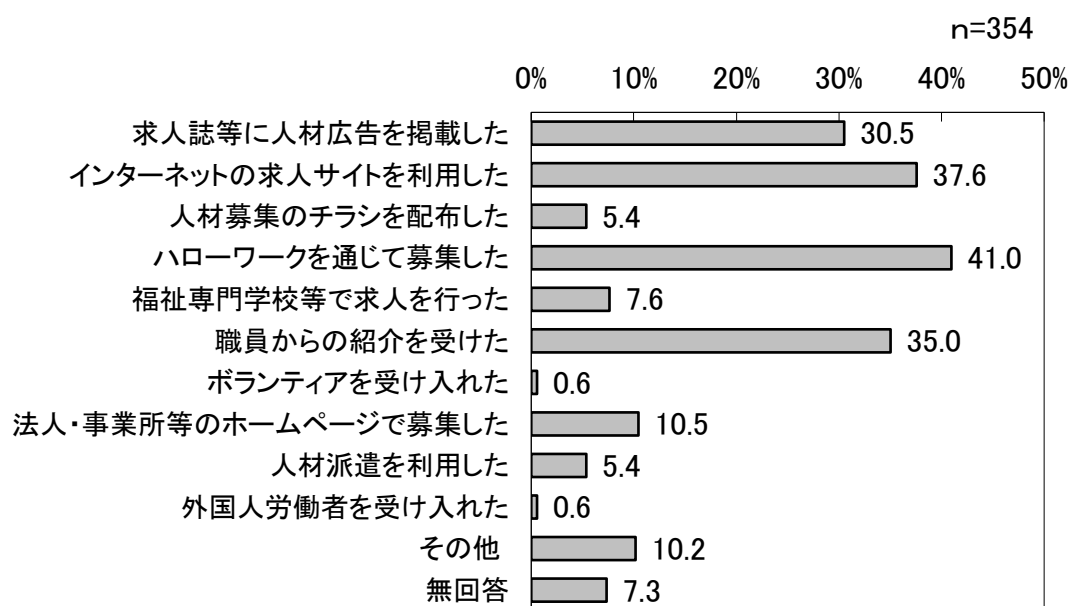
総職員数別にみても同様の傾向である。

	問12人材確保のための手法												
	求人誌等に人材広告を掲載した	インターネットの求人サイトを利用した	人材募集のチラシを配布した	ハローワークを通じて募集した	福祉専門学校等で求人を行った	職員からの紹介を受けた	ボランティアを受け入れた	法人・事業所等のホームページで募集した	人材派遣を利用した	外国人労働者を受け入れた	その他	特にしていない	無回答
全体	49.2%	60.5%	11.6%	71.8%	16.7%	44.9%	5.6%	28.5%	9.6%	0.8%	8.2%	5.4%	0.0%
20人未満	47.6%	59.5%	8.7%	70.1%	13.5%	43.7%	5.1%	25.4%	8.0%	0.6%	8.0%	5.8%	0.0%
20～49人	58.1%	61.3%	29.0%	83.9%	41.9%	48.4%	9.7%	51.6%	19.4%	0.0%	6.5%	3.2%	0.0%
50～99人	71.4%	71.4%	42.9%	100.0%	42.9%	71.4%	0.0%	71.4%	28.6%	14.3%	28.6%	0.0%	0.0%
100人以上	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	66.7%	100.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問 問 12 の回答のうち、実際に効果があったのはどれですか。あてはま  
12-2 るものをすべて選択してください。【複数回答】

効果があったものについては、「ハローワークを通じて募集した」が 41.0%と最も高く、次いで「インターネットの求人サイトを利用した」が 37.6%、「職員からの紹介を受けた」が 35.0%となっている。

効果があったもの

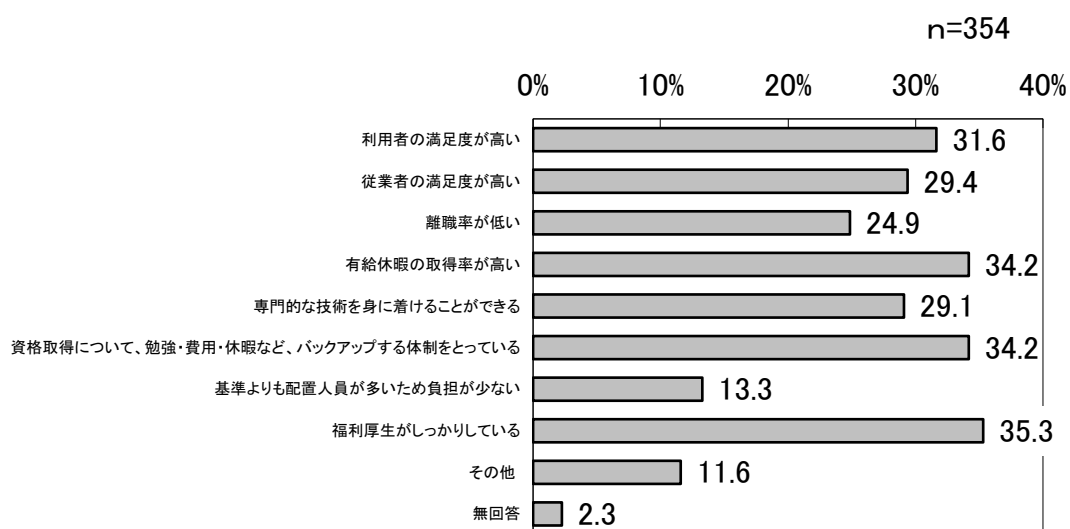


## 【6.事業所調査】

問 貴法人が人材を募集する際にアピールしていることはどのようなもの  
12-3 のですか。あてはまるものをすべて選択してください。【複数回答】

人材を募集する際にアピールしていることについては、「福利厚生がしっかりしている」が35.3%と最も高く、次いで「有給休暇の取得率が高い」「資格取得について、勉強・費用・休暇など、バックアップする体制をとっている」が34.2%となっている。

### 人材を募集する際にアピールしていること



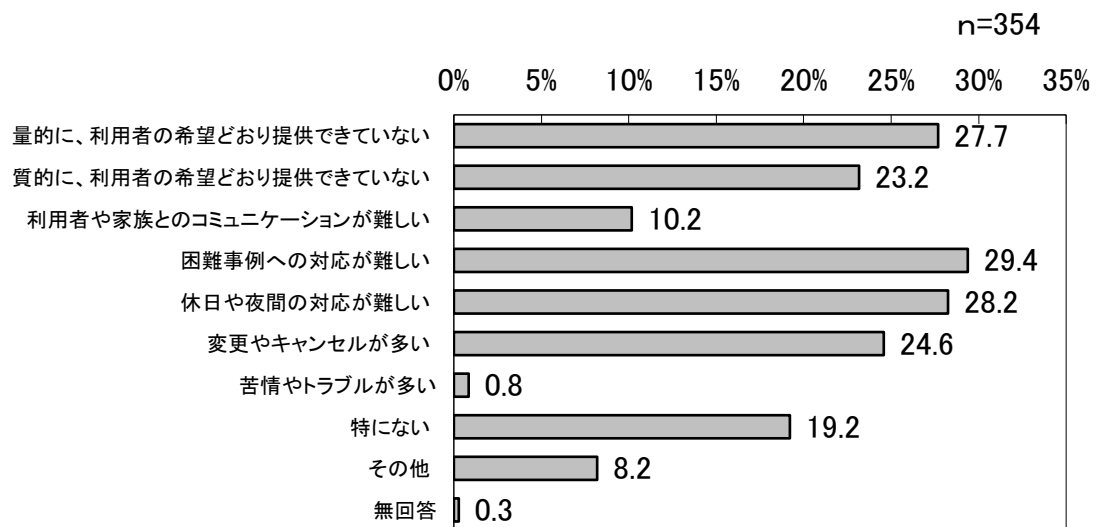
## 3 サービス提供について

貴事業所では、サービスを提供するうえで、どのような課題がありますか。あてはまるものを3つまで選択してください。

【複数回答】

サービスを提供するうえでの課題については、「困難事例への対応が難しい」が29.4%と最も高く、次いで「休日や夜間の対応が難しい」が28.2%、「量的に、利用者の希望どおり提供できていない」が27.7%となっている。

## サービスを提供するうえでの課題

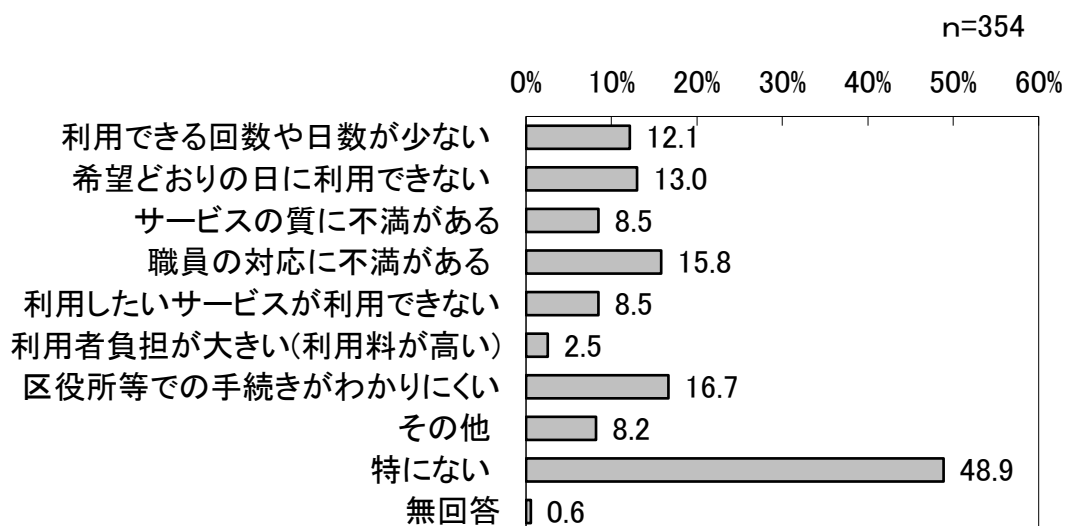


## 【6.事業所調査】

貴事業所では、サービス利用について、利用者やご家族からどのような相談や苦情を受け付けていますか。あてはまるものを3つまで選択してください。【複数回答】

サービス利用に関する相談や苦情については、「特にない」が48.9%と最も高く、次いで「区役所等での手続きがわかりにくい」が16.7%、「職員の対応に不満がある」が15.8%となっている。

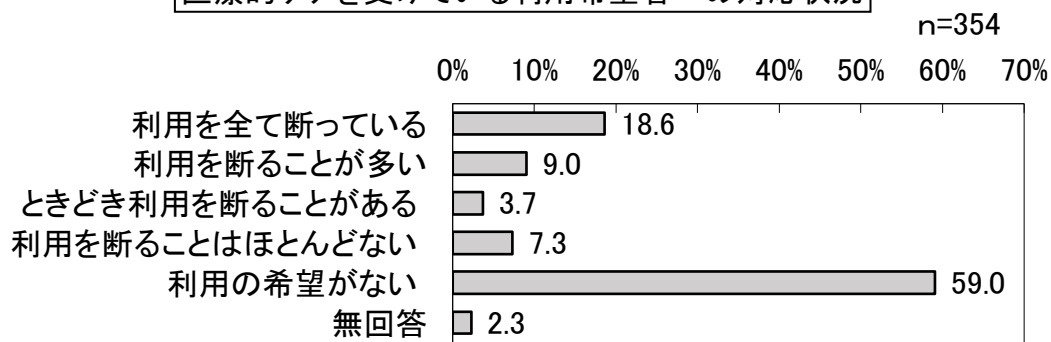
### サービス利用に関する相談や苦情



問 15 貴事業所では、医療的ケアを受けている(=人工呼吸器等の医療器具を常時使用している、在宅で吸引、導尿等の医療的処置を受けている)利用者について、どのように対応していますか。あてはまるものを1つ選択してください。

医療的ケアを受けている利用希望者への対応状況については、「利用の希望がない」が59.0%と最も高く、次いで「利用を全て断っている」が18.6%、「利用を断ることが多い」が9.0%となっている。

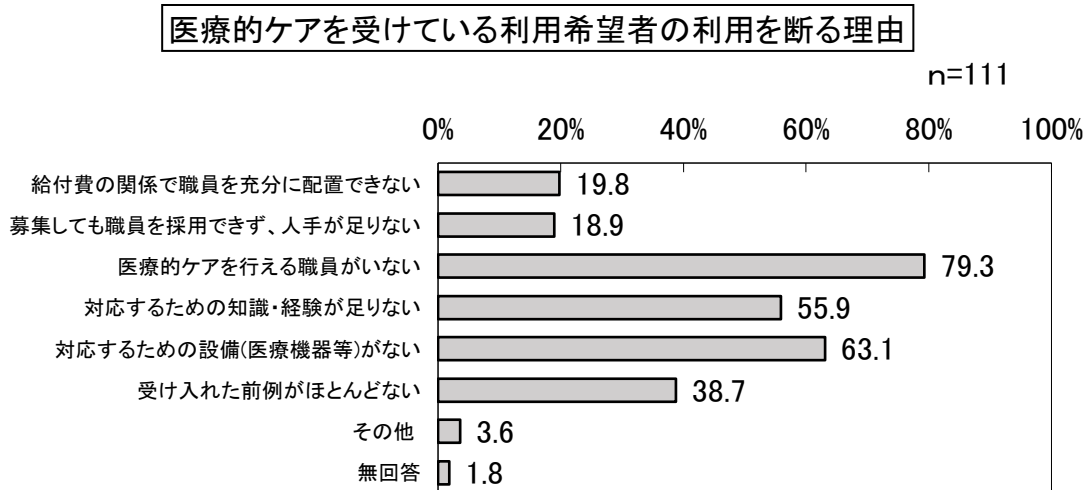
医療的ケアを受けている利用希望者への対応状況



## 【6.事業所調査】

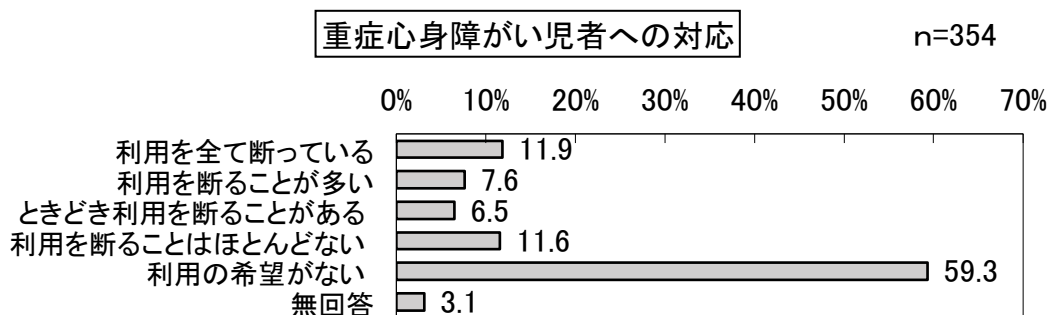
《問 15 で「利用を全て断っている」「利用を断ることが多い」「ときどき利用を断ることがある」を回答した事業所にお聞きします》  
問 16 貴事業所で、医療的ケアを受けている利用者からの利用を断る理由は、どのようなものですか。あてはまるものをすべて選択してください。【複数回答】

医療的ケアを受けている利用希望者の利用を断る理由については、「医療的ケアを行える職員がいない」が79.3%と最も高く、次いで「対応するための設備(医療機器等)がない」が63.1%、「対応するための知識・経験が足りない」が55.9%となっている。【複数回答】



問 17 貴事業所では、重症心身障がい児者について、どのように対応していますか。あてはまるものを1つ選択してください

重症心身障がい児者への対応については、「利用の希望がない」が59.3%と最も高く、次いで「利用を全て断っている」が11.9%、「利用を断ることはほとんどない」が11.6%となっている。

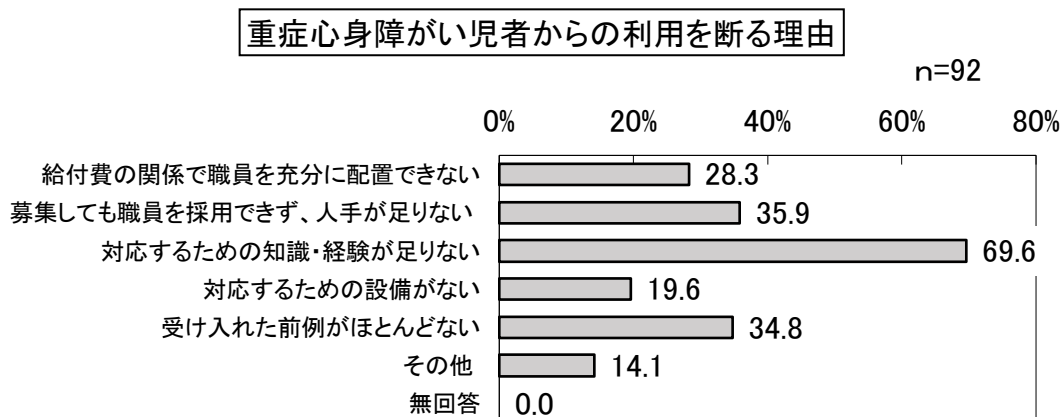


《問 17 で「利用を全て断っている」「利用を断ることが多い」「ときどき利用を断ることがある」を回答した事業所にお聞きします》

問 18 貴事業所で、重症心身障がい児者からの利用を断る理由は、どのようなものですか。あてはまるものをすべて選択してください。

【複数回答】

重症心身障がい児者からの利用を断る理由については、「対応するための知識・経験が足りない」が69.6%と最も高く、次いで「募集しても職員を採用できず、人手が足りない」が35.9%、「受け入れた前例がほとんどない」が34.8%となっている。

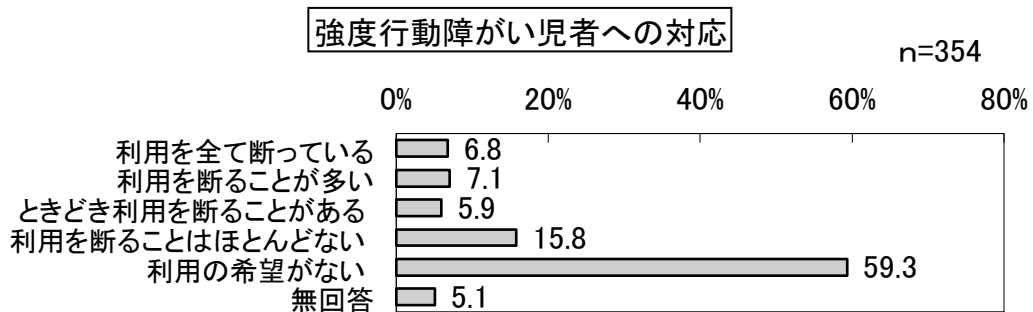




【6.事業所調査】

問 19 貴事業所では、強度行動障がい児者について、どのように対応していますか。あてはまるものを1つ選択してください。

強度行動障がい児者への対応については、「利用の希望がない」が59.3%と最も高く、次いで「利用を断ることはほとんどない」が15.8%、「利用を断ることが多い」が7.1%となっている。

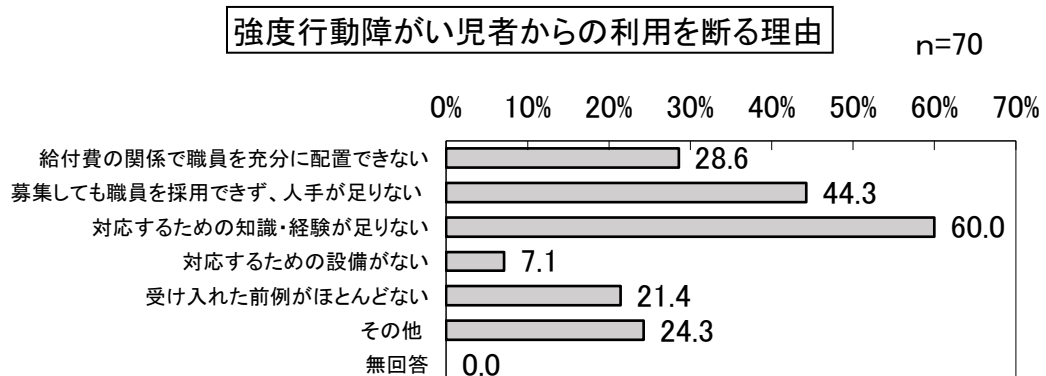


《問 19 で「利用を全て断っている」「利用を断ることが多い」「ときどき利用を断ることがある」を回答した事業所にお聞きします》

問 20 貴事業所で、強度行動障がい児者からの利用を断る理由は、どのようなものですか。あてはまるものをすべて選択してください。

【複数回答】

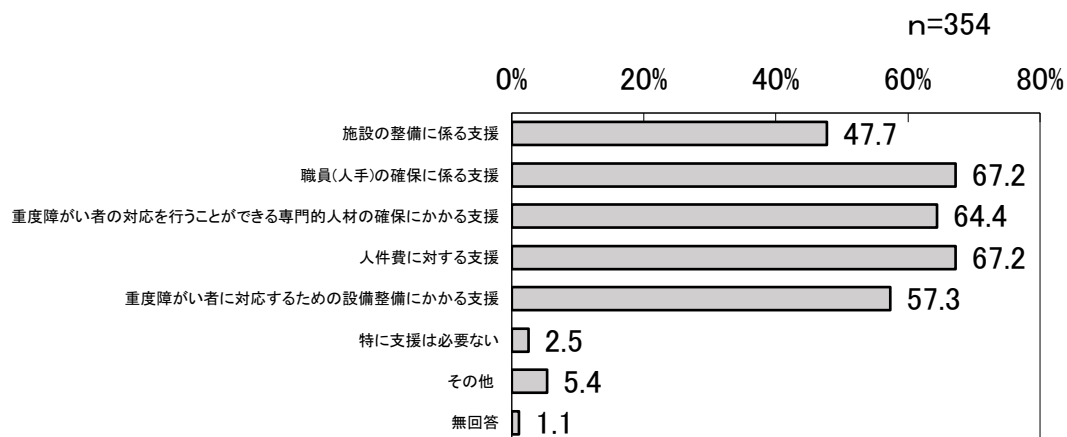
強度行動障がい児者からの利用を断る理由については、「対応するための知識・経験が足りない」が60.0%と最も高く、次いで「募集しても職員を採用できず、人手が足りない」が44.3%、「給付費の関係で職員を十分に配置できない」が28.6%となっている。



問 21 貴事業所では、今後、重度障がい者の受入人数を拡大するため、どのような行政からの支援が必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。※ここで「重度障がい者」は、重症心身障がい児者または強度行動障がい者を指す。【複数回答】

重度障がい者の受入人数を拡大するため必要な支援については、「職員(人手)の確保に係る支援」「人件費に対する支援」が67.2%と最も高く、「重度障がい者の対応を行うことができる専門的人材の確保にかかる支援」が64.4%となっている。

### 重度障がい者の受入人数を拡大するため必要な支援



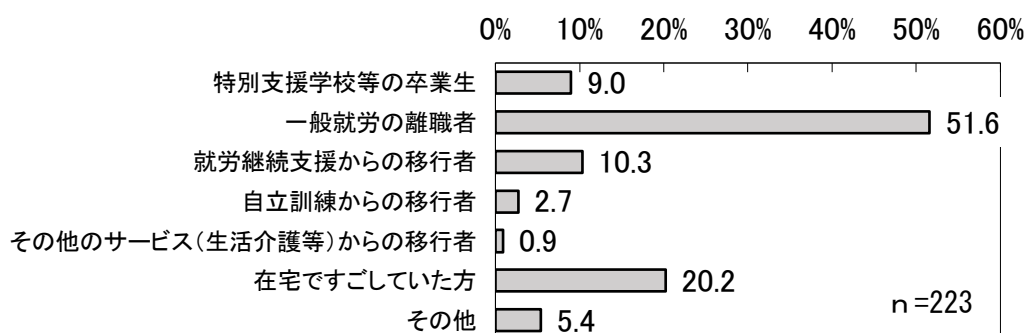
【6.事業所調査】

《就労移行支援事業所にお聞きします》

問 22 サービスの利用者は、これまでどのようなことをされていた方ですか。それぞれ人数をご記入ください。

サービス利用者がこれまでされていたことについては、「一般就労の離職者」が51.6%と最も高く、次いで「在宅ですごしていた方」が20.2%となっている。

サービス利用者がこれまでされていたこと

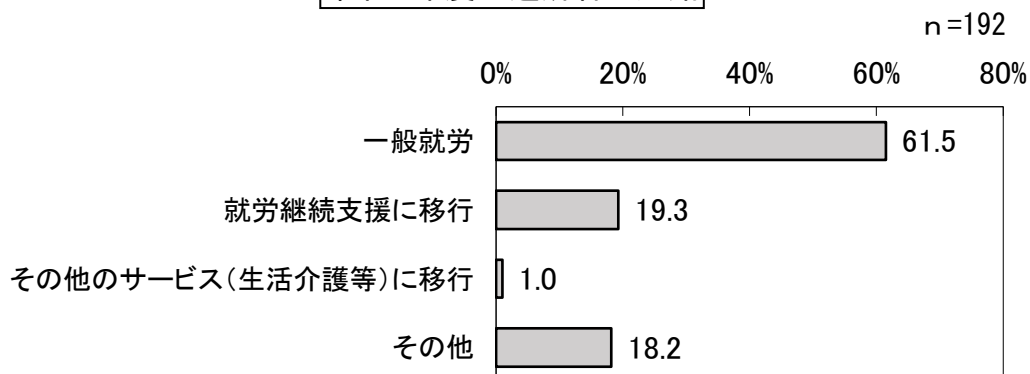


《就労移行支援事業所にお聞きします》

問 23 令和3年度1年間の退所者の進路について、人数をご記入ください。

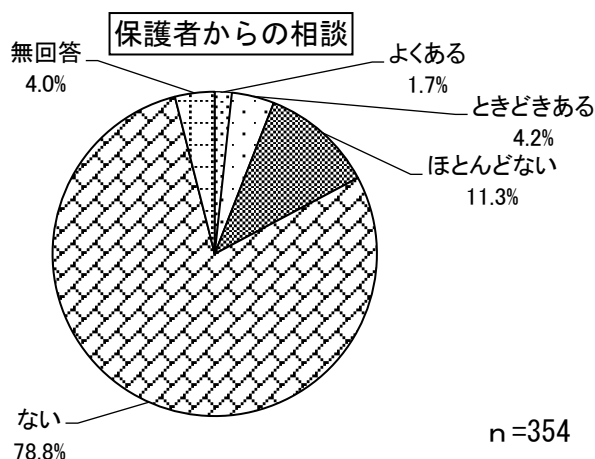
令和3年度1年間の退所者の進路については、「一般就労」が61.5%と最も高く、次いで「就労継続支援に移行」が19.3%となっている。

令和3年度の退所者の進路



問 24 入院中の障がい児に対して病院内での支援をしてほしいという保護者からの相談はどのくらいありますか。

保護者からの相談については、「ない」が78.8%と最も高く、次いで「ほとんどない」が11.3%、「ときどきある」が4.2%となっている。



問 25 《問 24 で「よくある」「ときどきある」を回答した事業所にお聞きします》

どのような支援の要望でしたか。具体的にご記入ください。

【自由記述】

相談の内容については、18件（回答件数21件の85.7%）の回答が寄せられた。回答の一部を以下に抜粋する。

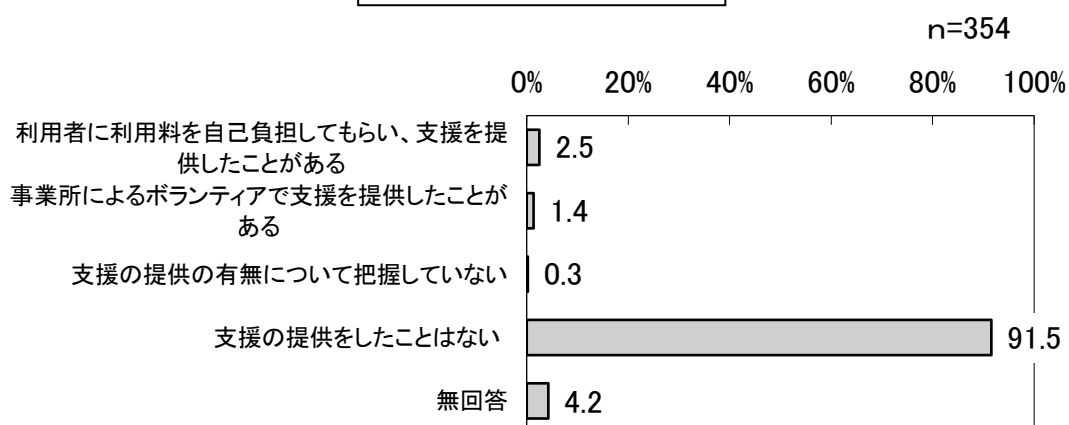
- 入院時コミュニケーション支援
- 病院への送り迎えやオンラインでの支援
- 入院中の付き添い
- 受診の相談
- 病院内での食事や排泄の介助

【6.事業所調査】

問 26 入院中の障がい児のために、病院内でヘルパーによる支援を提供したことがありますか。あてはまるものを1つ選択してください。

ヘルパーによる支援の提供については、「支援の提供をしたことはない」が91.5%と最も高く、次いで「利用者に利用料を自己負担してもらい、支援を提供したことがある」が2.5%、「事業所によるボランティアで支援を提供したことがある」が1.4%となっている。

ヘルパーによる支援の提供



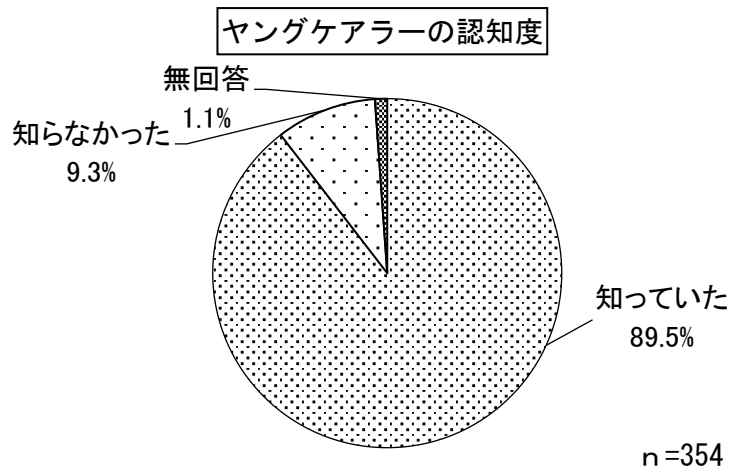
問 27 《問 26 で「利用者に利用料を自己負担してもらい、支援を提供したことがある」「事業所によるボランティアで支援を提供したことがある」を回答した事業所にお聞きします》  
どのような支援を提供しましたか。具体的にご記入ください。

支援の内容については、13 件（回答件数 14 件の 92.9%）の回答が寄せられた。回答の一部を以下に抜粋する。

- 入院中の患者の買い物
- トイレ介助、移動介助
- 付き添い・見守り
- コミュニケーション支援

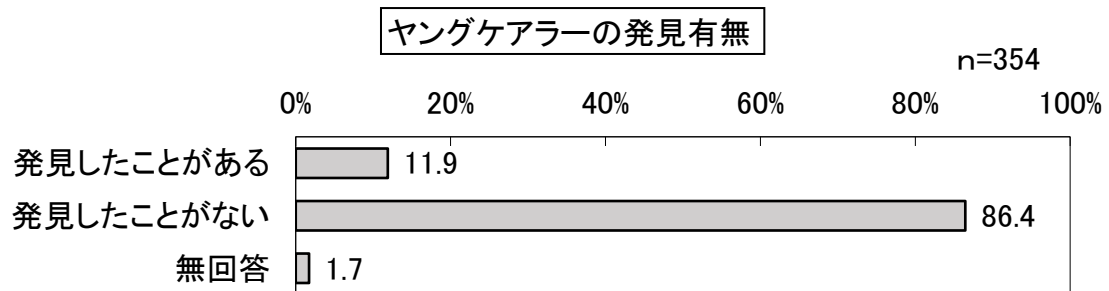
問 28 ヤングケアラーという言葉を知っていましたか。

ヤングケアラーの認知度については、「知っていた」が89.5%と最も高く、次いで「知らなかった」が9.3%、「無回答」が1.1%となっている。



問 29 サービスを提供している中で、ヤングケアラーと思われるお子さんを発見したことがありますか。

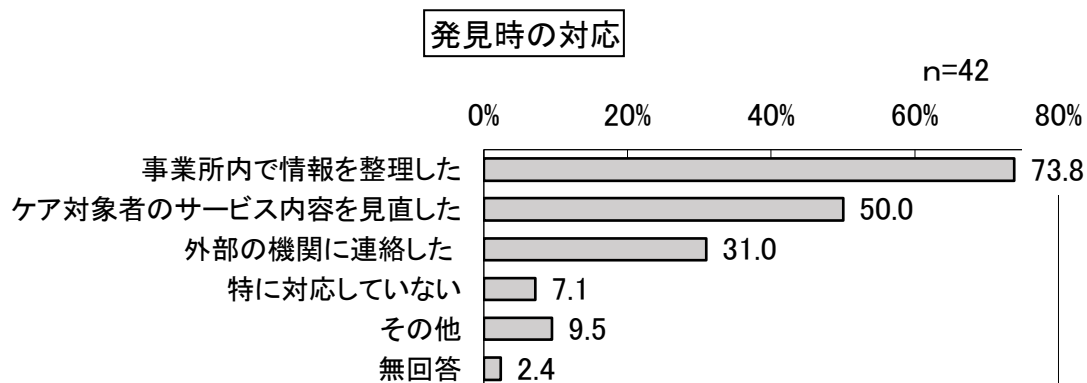
ヤングケアラーの発見有無については、「発見したことがない」が86.4%と最も高く、次いで「発見したことがある」が11.9%、「無回答」が1.7%となっている。



## 【6.事業所調査】

《問 29 で「発見したことがある」を回答した事業所にお聞きします》  
問 30 貴事業所は、発見した時にどのような対応をしましたか。あてはまるものをすべて選択してください。【複数回答】

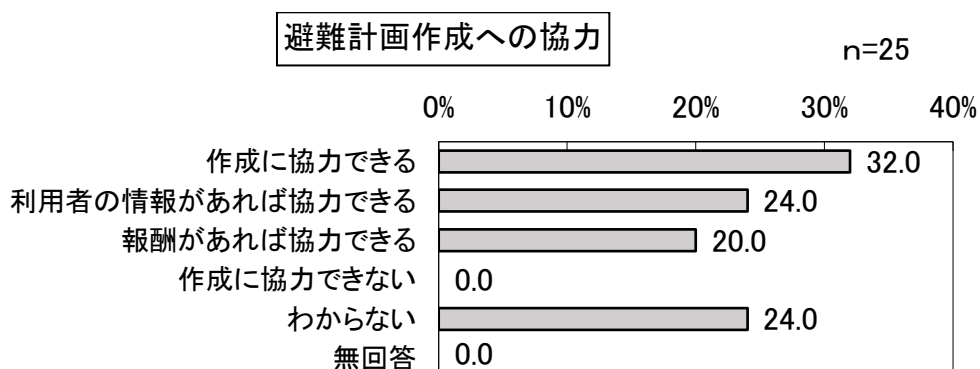
発見時の対応については、「事業所内で情報を整理した」が 73.8%と最も高く、次いで「ケア対象者のサービス内容を見直した」が 50.0%、「外部の機関に連絡した」が 31.0%となっている。



## 4 事業所における災害対応・備えについて

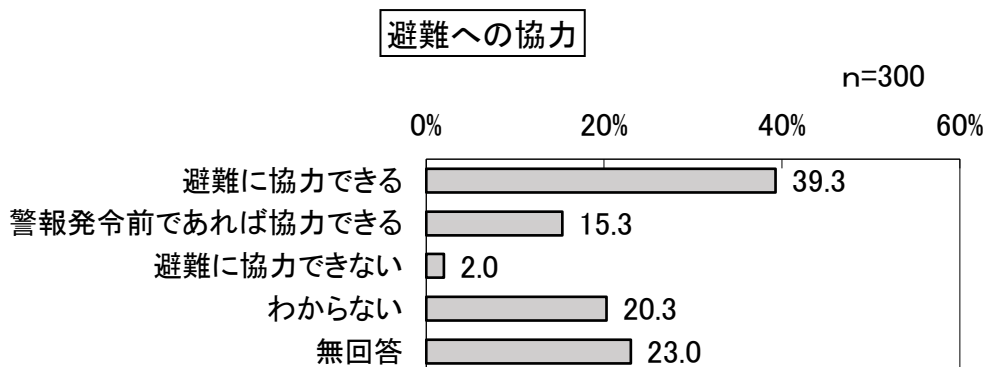
問 31 《相談支援事業所・居宅系サービス事業所にお聞きします》  
 災害時に利用者が避難するための計画(要避難者の状況・避難先・避難支援者などをまとめたもの)の作成に協力できますか。あてはまるものを1つ選択してください。

避難計画作成への協力については、「作成に協力できる」が32.0%と最も高く、次いで「利用者の情報があれば協力できる」「わからない」が24.0%となっている。



問 32 《日中活動系・居宅系サービス事業所にお聞きします》  
 洪水や土砂災害など、事前の避難が可能な警報の発令時や発令の恐れがある時、利用者の避難に協力することはできますか。あてはまるものを1つ選択してください。

避難への協力については、「避難に協力できる」が39.3%と最も高く、次いで「わからない」が20.3%、「警報発令前であれば協力できる」が15.3%となっている。



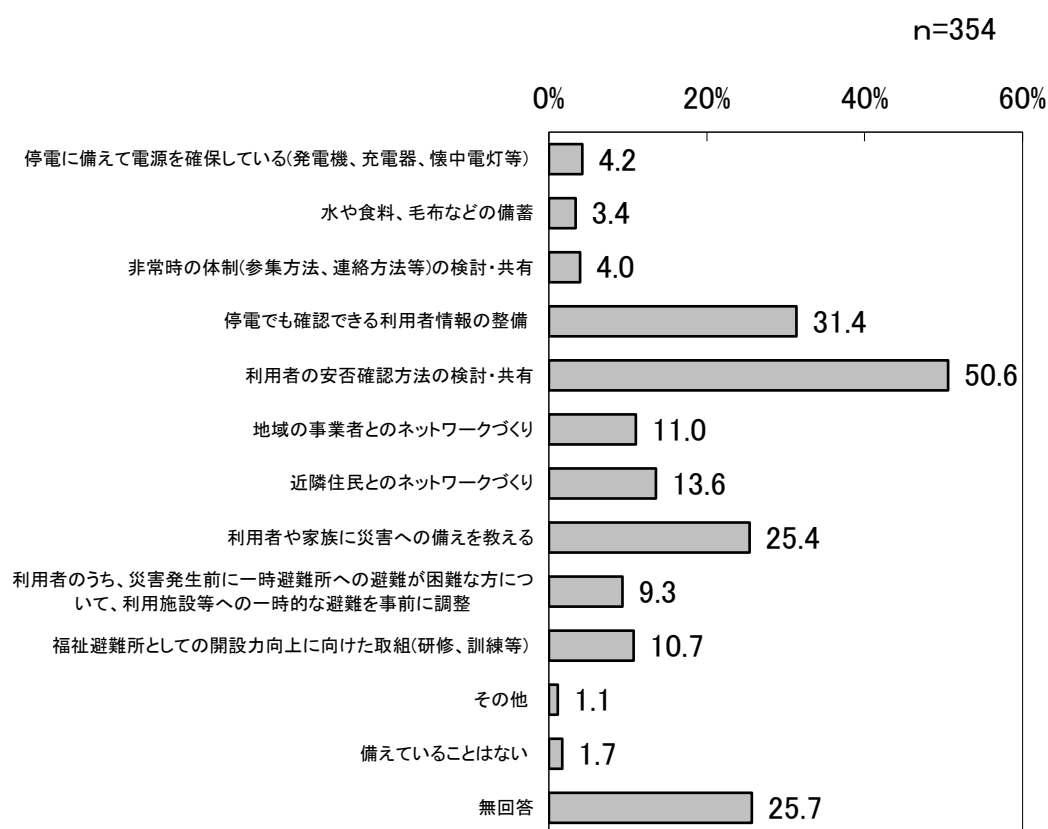


【6.事業所調査】

問 33 貴事業所が現在、災害に備えていることはありますか。あてはまるものをすべて選択してください。【複数回答】

災害に備えていることについては、「利用者の安否確認方法の検討・共有」が50.6%と最も高く、次いで「停電でも確認できる利用者情報の整備」が31.4%、「利用者や家族に災害への備えを教える」が25.4%となっている。

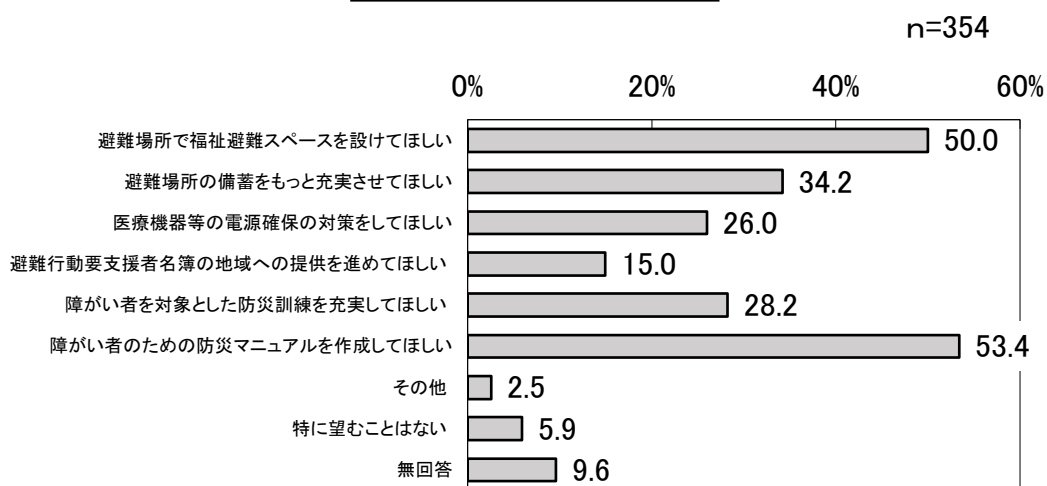
災害に備えていること



問 34 災害対応に関して、札幌市に望むことはありますか。あてはまるものをすべて選択してください。【複数回答】

災害対応に関して望むことについては、「障がい者のための防災マニュアルを作成してほしい」が53.4%と最も高く、次いで「避難場所で福祉避難スペースを設けてほしい」が50.0%、「避難場所の備蓄をもっと充実させてほしい」が34.2%となっている。

### 災害対応に関して望むこと



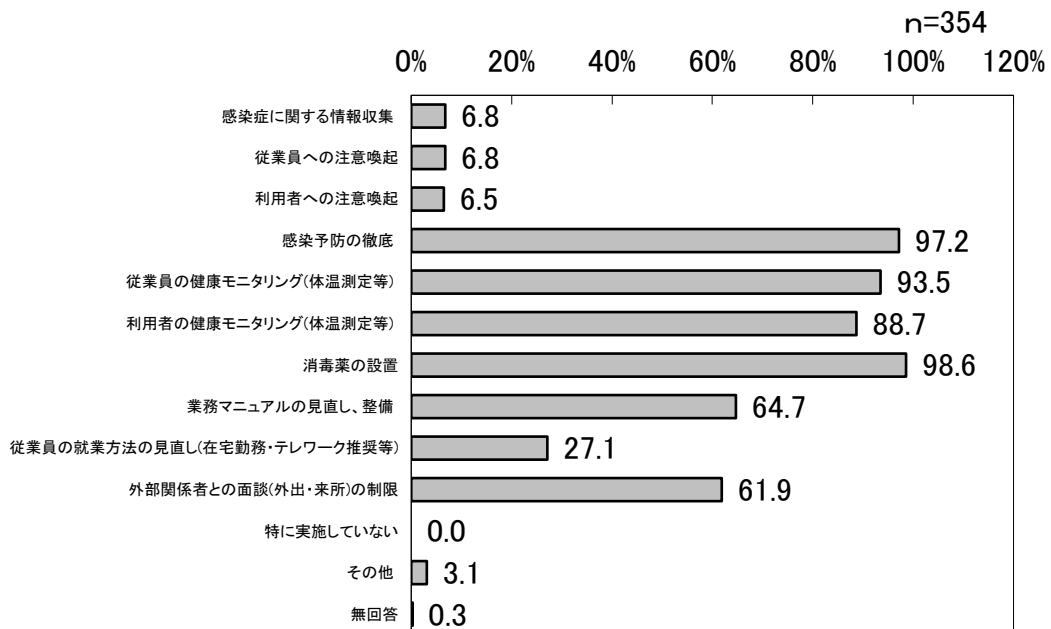
## 【6.事業所調査】

### 5 新型コロナウイルス感染症の対応について

貴事業所では、現時点までに、どのような新型コロナウイルス感染症への対応を行いましたか。あてはまるものをすべて選択してください。【複数回答】

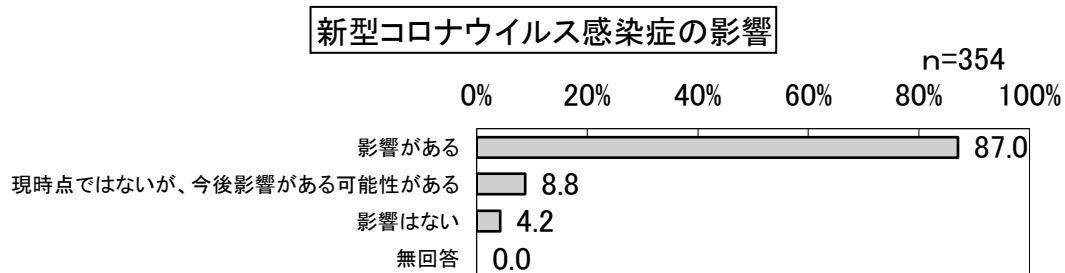
新型コロナウイルス感染症への対応については、「消毒薬の設置」が98.6%と最も高く、次いで「感染予防の徹底」が97.2%、「従業員の健康モニタリング(体温測定等)」が93.5%となっている。

#### 新型コロナウイルス感染症への対応



問 36 業務に新型コロナウイルス感染症の影響はありましたか。あてはまるものを選択してください。

新型コロナウイルス感染症の影響については、「影響がある」が87.0%と最も高く、次いで「現時点ではないが、今後影響がある可能性がある」が8.8%、「影響はない」が4.2%となっている。



問 37 貴事業所での新型コロナウイルス感染症の影響について、懸念や困っていることがあればお答えください。【自由記述】

新型コロナウイルス感染症で困っていることについては、200件（回答件数354件の56.5%）の回答が寄せられた。回答の一部を以下に抜粋する。

- 陽性者、濃厚接触者となることで療養や自宅待機となり、利用者数とともに収入も減少。同様に職員の場合は人手不足となった。
- 新型コロナウイルス感染症に対して不安が大きくなり、通所できなくなってしまった方がいた。
- 濃厚接触者・学級閉鎖などキャンセルが多い、例外的算定があっても支援を希望する利用者がいなかった。
- 独居の利用者様が感染した場合、どうしても行かなければならず、訪問介護での防護服などの準備ができなかった。

## 【6.事業所調査】

問 38 新型コロナウイルス感染症について、札幌市に望む支援があればお答えください。【自由記述】

新型コロナウイルス感染症で望む支援については、146件（回答件数354件の41.2%）の回答が寄せられた。回答の一部を以下に抜粋する。

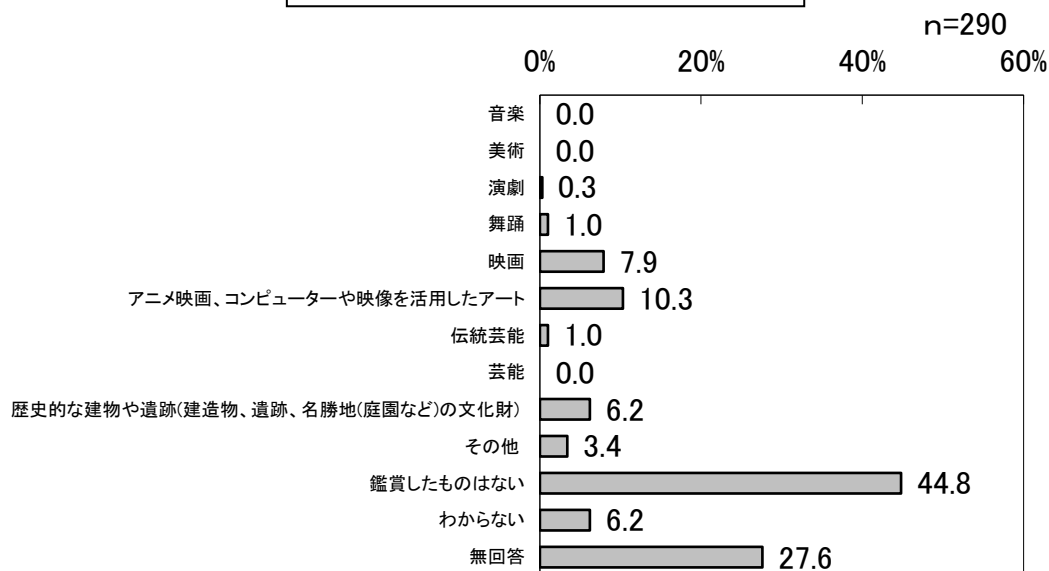
- マスク等の援助
- 職員が帰宅することで濃厚接触者になること自体を防ぐための無償の宿泊施設を設置していただきたい。
- コロナ陽性者が医療機関を受診できない状態である。
- 定期的に抗原定性検査を実施できるようキットを配布してほしい。
- 福祉事業所における感染状況の周知をお願いしたい。
- 陽性者発生時に事業が停止した場合へ備えた公的な補償制度

## 6 障がいのある方の文化芸術活動について

問 39 《日中活動系・居住系サービス事業所にお聞きします》  
 貴事業所の活動として、利用者が過去1年間で文化芸術を直接鑑賞する機会がありましたか。また、鑑賞した種類はどのようなものですか。あてはまるものをすべて選択してください。【複数回答】

文化芸術を直接鑑賞する機会の有無については、「鑑賞したものはない」が44.8%と最も高く、次いで「アニメ映画、コンピューターや映像を活用したアート」が10.3%、「映画」が7.9%となっている。

文化芸術を直接鑑賞する機会の有無



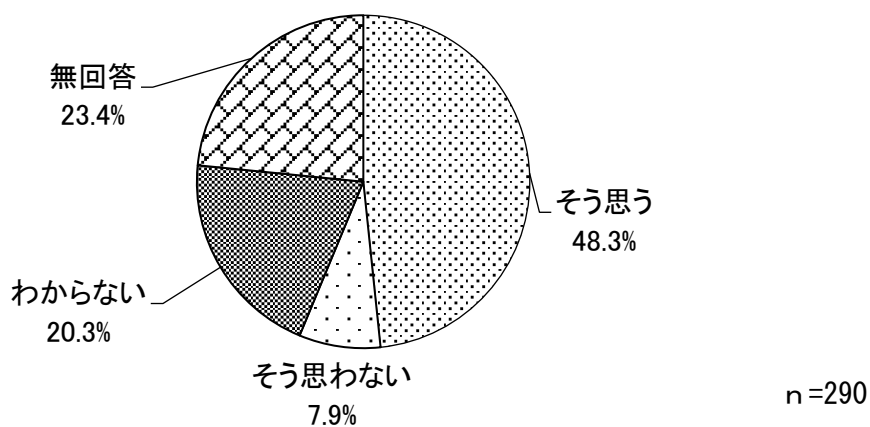
## 【6.事業所調査】

《日中活動系・居住系サービス事業所にお聞きします》

問 40 貴事業所の活動として、利用者が文化芸術活動を直接鑑賞する機会を増やしたいですか。あてはまるものを1つ選択してください。

文化芸術を直接鑑賞する機会を増やしたいかについては、「そう思う」が48.3%と最も高く、次いで「わからない」が20.3%、「そう思わない」が7.9%となっている。

文化芸術を直接鑑賞する機会を増やしたいか



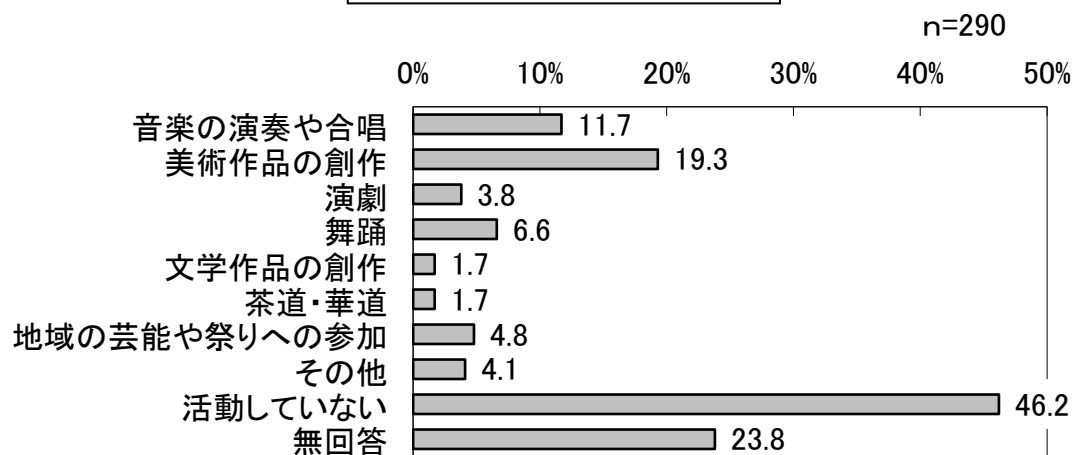
《日中活動系・居住系サービス事業所にお聞きします》

貴事業所の活動として、利用者が文化芸術に関わる機会がありましたか。また、それはどのようなものですか。あてはまるものをすべて選択してください。※過去1年間について、お答えください。

【複数回答】

文化芸術に関わる機会の有無については、「活動していない」が46.2%と最も高く、次いで「美術作品の創作」が19.3%、「音楽の演奏や合唱」が11.7%となっている。

文化芸術に関わる機会の有無

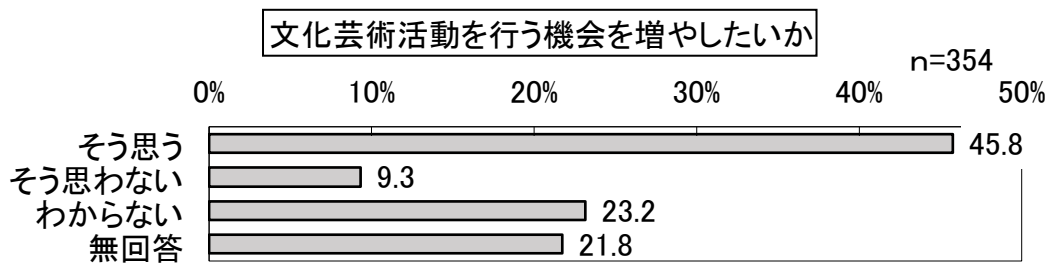




【6.事業所調査】

問 42 今後、貴事業所の活動として、利用者が文化芸術活動を行う機会を増やしたいですか。あてはまるものを1つ選択してください。

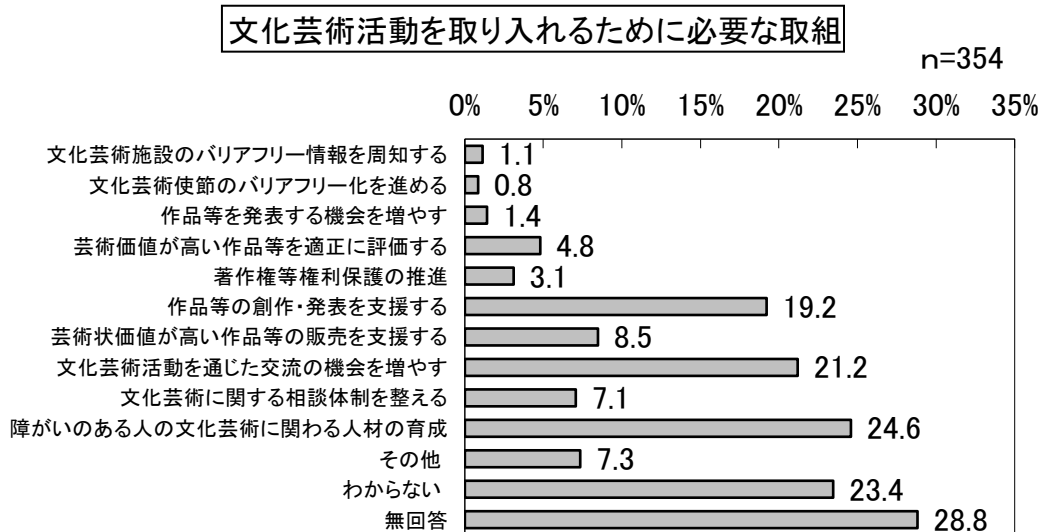
文化芸術活動を行う機会を増やしたいかについては、「そう思う」が45.8%と最も高く、次いで「わからない」が23.2%、「そう思わない」が9.3%となっている。



問 43 貴事業所の活動に文化芸術活動を取り入れるには、どのような取組が必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。

【複数回答】

文化芸術活動を取り入れるために必要な取組については、「障がいのある人の文化芸術に関わる人材の育成」が24.6%と最も高く、次いで「わからない」が23.4%、「文化芸術活動を通じた交流の機会を増やす」が21.2%となっている。



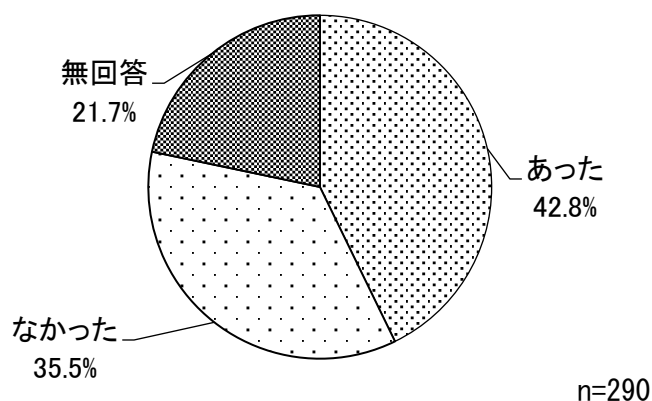
## 7 障がいのある方の読書活動について

《日中活動系・居住系サービス事業所にお聞きします》

問 44 貴事業所は、過去 1 年間で利用者の方が本に触れるような機会を設けることができましたか。

本に触れる機会の有無については、「あった」が 42.8%と最も高く、次いで「なかった」が 35.5%、「無回答」が 21.7%となっている。

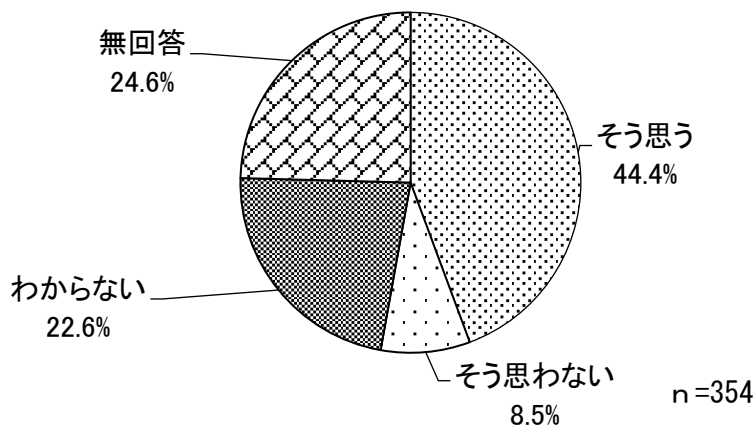
本に触れる機会の有無



問 45 貴事業所は、利用者の方が本に触れるような機会を増やしたいですか。

本に触れる機会を増やしたいかについては、「そう思う」が 44.4%と最も高く、次いで「わからない」が 22.6%、「そう思わない」が 8.5%となっている。

本に触れる機会を増やしたいか



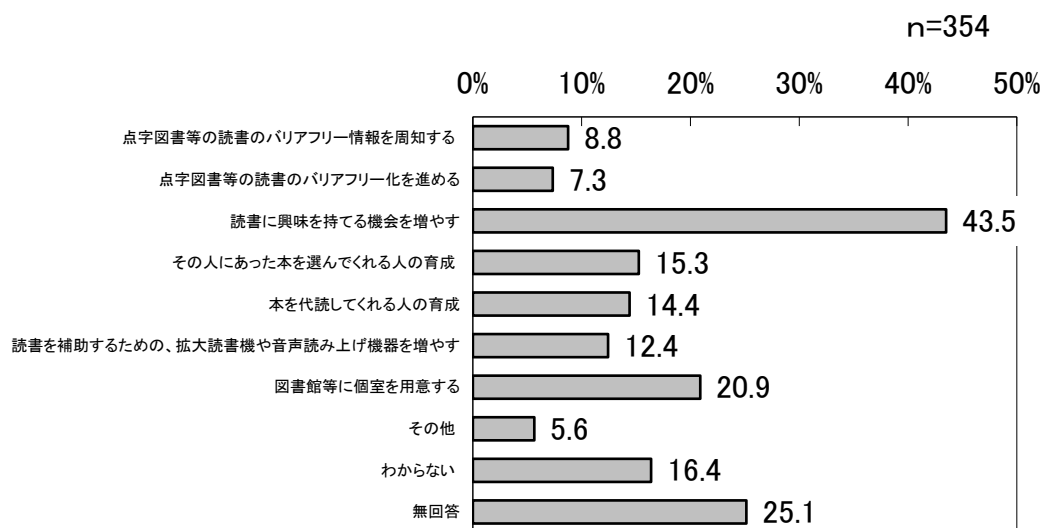
## 【6.事業所調査】

障がいのある方の読書活動を推進するにはどのような取組が必要だ  
問 46 と思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。

【複数回答】

読書活動を推進するために必要な取組については、「読書に興味を持てる機会を増やす」が43.5%と最も高く、次いで「図書館等に個室を用意する」が20.9%、「わからない」が16.4%となっている。

### 読書活動を推進するために必要な取組

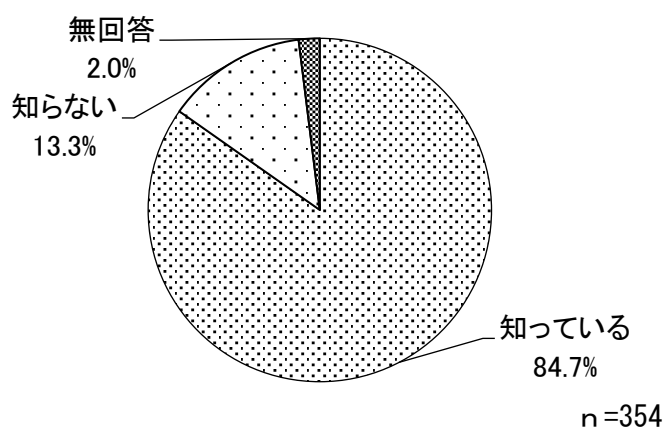


## 8 障害者差別解消法について

問 47 令和3年に障害者差別解消法が改正され、今後事業所による障がいのある方への合理的配慮が法的義務化されることを知っていますか。

障害者差別解消法の認知度については、「知っている」が84.7%と最も高く、次いで「知らない」が13.3%、「無回答」が2.0%となっている。

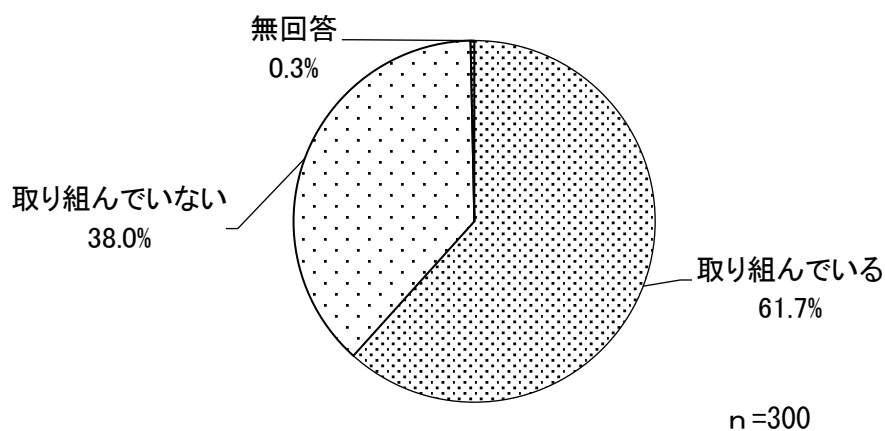
障害者差別解消法の認知度



問 48 合理的配慮の法的義務化に向けて取り組んでいることはありますか。

合理的配慮の法的義務化に向けて取り組んでいることについては、「取り組んでいる」が61.7%と最も高く、次いで「取り組んでいない」が38.0%、「無回答」が0.3%となっている。

合理的配慮の法的義務化に向けて取り組んでいること



## 【6.事業所調査】

問 49 《問 48 で「取り組んでいる」を回答した事業所にお聞きします》  
どのような取組をしていますか。【自由記述】

取組の内容については、152 件（回答件数 185 件の 82.2%）の回答が寄せられた。回答の一部を以下に抜粋する。

- 出来るだけ事業所内の段差をなくし、掲示物の字は大きくして見やすくし、なるべく難しい専門用語を使わないようにしている。
- 理解しにくい資料をよりわかりやすく作成している。
- 定期的な職員会議の中で、その都度必要に応じて方策を検討及び検証している。
- 虐待防止委員会等で研修などを企画、全体に周知している。

問 50 《問 48 で「取り組んでいない」を回答した事業所にお聞きします》  
取組をしていない理由をお答えください。【自由記述】

取組をしていない理由については、72 件（回答件数 114 件の 63.2%）の回答が寄せられた。回答の一部を以下に抜粋する。

- 合理的配慮の提供を必要とする事案がない。
- 制度は知っていたが、実際に療育の場面で取り入れることが難しいから。
- 改めて何かをやっているということはないが、虐待防止や権利擁護の研修の中で、合理的配慮についても含めて研修しているため。

問 51 今後検討している取組があればお答えください。【自由記述】

今後検討している取組については、98件（回答件数354件の27.7%）の回答が寄せられた。回答の一部を以下に抜粋する。

- 利用者様家族から家族のみで出掛ける際の対応を聞かれることもあり、経験上の知識を伝えながら家族で出掛ける楽しみを味わってもらいたい。
- 書字、音読について困難な児童に対する、指導法の取組
- 利用者様が自身で選択できる作業の種類を増やしたい。やらされているというのではなく、これをやりたいと言ってもらえる作業の見直しと工夫

問 52 その他ご意見やご要望があればご記入ください。【自由記述】

自由意見については、37件（回答件数354件の10.5%）の回答が寄せられた。回答の一部を以下に抜粋する。

- 各事業所との合同又はジャンル分けした交流会を実施し、他事業所との接点を持ちたい。他の事業所の強み（活動）の中で当事業所に合う活動を取り入れ、各事業所の孤独の悩み等を解決したい(してもらいたい)。
- 当事業所はテナント入居のため、バリアフリー化は難しい状況。費用面の問題が大きいいため、貸主側への働きかけも必要と思われる。
- コロナに罹患した場合への報酬を考えていただきたい。
- グループホームの運営にあたり、慢性的な人材不足を感じる。生活支援員、世話人ともに募集しても集まらず、現在の人数で運営していくしかない。